

香川高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	体育 I
科目基礎情報						
科目番号	221042		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	実技		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建設環境工学科（2019年度以降入学者）		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材	教科書：現代保健体育（大修館書店）					
担当教員	吉澤 恒星,関 幸子					
到達目標						
様々なスポーツ種目の実践を通じて、①健全な身体の発達及び体力の向上、②生涯スポーツ実践のための基礎スキル獲得、③技術者として求められるチームワーク（団体行動）やルール遵守といった模範的な態度の醸成、④健康に対する基本的な知識の習得、を目指す。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
様々なスポーツ種目の実践を通じて、健全な身体の発達及び体力の向上がみられる	スポーツ種目全般について、試合をこなす体力が獲得できる。		得意な種目について、試合をこなす体力が獲得できる。		全ての種目において、試合をこなす体力が獲得できない。	
様々なスポーツ種目の実践を通じて、生涯スポーツ実践のための基礎スキルを獲得できる	スポーツ種目全般について、基礎スキルを体現できる。		得意な種目について、基礎スキルを体現できる。		全ての種目において、基礎スキルを体現できない。	
様々なスポーツ種目の実践を通じて、技術者として求められるチームワーク（団体行動）やルール遵守といった模範的な態度を醸成できる。	授業での種目実践（試合など）においてグループの中でリーダーシップを発揮できる。		授業での種目実践（試合など）においてグループの中で良好な人間関係を構築できる。		授業での種目実践（試合など）において人間関係を構築できない。	
様々なスポーツ種目の実践や保健の授業を通じて、健康に対する基本的な知識を習得できる	健康に対する基本的な知識を十分に習得し、日々の生活の中で実践できる。		健康に対する基本的な知識を習得し、日々の生活の中で部分的に実践できる		健康に対する基本的な知識を習得できず、実践できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	様々なスポーツ種目の実践を通じて、①健全な身体の発達及び体力の向上、②生涯スポーツ実践のための基礎スキル獲得、③技術者として求められるチームワーク（団体行動）やルール遵守といった模範的な態度の醸成、④健康に対する基本的な知識の習得、を目指す。					
授業の進め方・方法	学習目標①～③に対応して、スポーツ種目の実践を実技形式の授業でおこなう。なお、種目によっては体力状況を考慮して内容を変更する場合がある。					
注意点	グラウンド状況が不良の場合は、特に運動場での実施種目について学習内容を変更する。 この科目は、本年度内及び進級後に再試験を実施しない。この科目の単位修得が進級要件となるので、必ず修得すること。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション・スポーツテスト	①健全な身体の発達及び体力の向上、②生涯スポーツ実践のための基礎スキル獲得、③技術者として求められるチームワーク（団体行動）やルール遵守といった模範的な態度の醸成、④健康に対する基本的な知識の習得		
		2週	スポーツテスト	①健全な身体の発達及び体力の向上、②生涯スポーツ実践のための基礎スキル獲得、③技術者として求められるチームワーク（団体行動）やルール遵守といった模範的な態度の醸成、④健康に対する基本的な知識の習得		
		3週	スポーツテスト・選択	①健全な身体の発達及び体力の向上、②生涯スポーツ実践のための基礎スキル獲得、③技術者として求められるチームワーク（団体行動）やルール遵守といった模範的な態度の醸成、④健康に対する基本的な知識の習得		
		4週	選択（バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・サッカー・ソフトボール）	①健全な身体の発達及び体力の向上、②生涯スポーツ実践のための基礎スキル獲得、③技術者として求められるチームワーク（団体行動）やルール遵守といった模範的な態度の醸成、④健康に対する基本的な知識の習得		
		5週	選択（バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・サッカー・ソフトボール）	①健全な身体の発達及び体力の向上、②生涯スポーツ実践のための基礎スキル獲得、③技術者として求められるチームワーク（団体行動）やルール遵守といった模範的な態度の醸成、④健康に対する基本的な知識の習得		
		6週	選択（バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・サッカー・ソフトボール）	①健全な身体の発達及び体力の向上、②生涯スポーツ実践のための基礎スキル獲得、③技術者として求められるチームワーク（団体行動）やルール遵守といった模範的な態度の醸成、④健康に対する基本的な知識の習得		
		7週	選択（バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・サッカー・ソフトボール）	①健全な身体の発達及び体力の向上、②生涯スポーツ実践のための基礎スキル獲得、③技術者として求められるチームワーク（団体行動）やルール遵守といった模範的な態度の醸成、④健康に対する基本的な知識の習得		

		10週	選択（バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・サッカー・ソフトボール）	①健全な身体の発達及び体力の向上、②生涯スポーツ実践のための基礎スキル獲得、③技術者として求められるチームワーク（団体行動）やルール遵守といった模範的な態度の醸成、④健康に対する基本的な知識の習得
		11週	選択（バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・サッカー・ソフトボール）	①健全な身体の発達及び体力の向上、②生涯スポーツ実践のための基礎スキル獲得、③技術者として求められるチームワーク（団体行動）やルール遵守といった模範的な態度の醸成、④健康に対する基本的な知識の習得
		12週	選択（バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・サッカー・ソフトボール）	①健全な身体の発達及び体力の向上、②生涯スポーツ実践のための基礎スキル獲得、③技術者として求められるチームワーク（団体行動）やルール遵守といった模範的な態度の醸成、④健康に対する基本的な知識の習得
		13週	選択（バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・サッカー・ソフトボール）	①健全な身体の発達及び体力の向上、②生涯スポーツ実践のための基礎スキル獲得、③技術者として求められるチームワーク（団体行動）やルール遵守といった模範的な態度の醸成、④健康に対する基本的な知識の習得
		14週	選択（バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・サッカー・ソフトボール）	①健全な身体の発達及び体力の向上、②生涯スポーツ実践のための基礎スキル獲得、③技術者として求められるチームワーク（団体行動）やルール遵守といった模範的な態度の醸成、④健康に対する基本的な知識の習得
		15週	選択（バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球・サッカー・ソフトボール）	①健全な身体の発達及び体力の向上、②生涯スポーツ実践のための基礎スキル獲得、③技術者として求められるチームワーク（団体行動）やルール遵守といった模範的な態度の醸成、④健康に対する基本的な知識の習得
		16週	試験実施せず	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2 前1,前2,前3,前4
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	2 前1,前2,前3,前4
				目標の実現に向けて計画ができる。	2 前1,前2,前3,前4
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	2 前1,前2,前3,前4
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	2 前1,前2,前3,前4
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2 前1,前2,前3,前4
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2 前1,前2,前3,前4
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	2 前1,前2,前3,前4
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	2 前1,前2,前3,前4
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2 前1,前2,前3,前4
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	2 前1,前2,前3,前4
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	2 前1,前2,前3,前4
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	2 前1,前2,前3,前4
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	2 前1,前2,前3,前4
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	2 前1,前2,前3,前4
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	2 前1,前2,前3,前4

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	40	40
専門的能力	0	0	0	0	0	40	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	20	20